

第 2 章 消費者の流動状況

県内で買物をする割合は、93.2%（前回比100.9%）と高く、引き続き増加している。

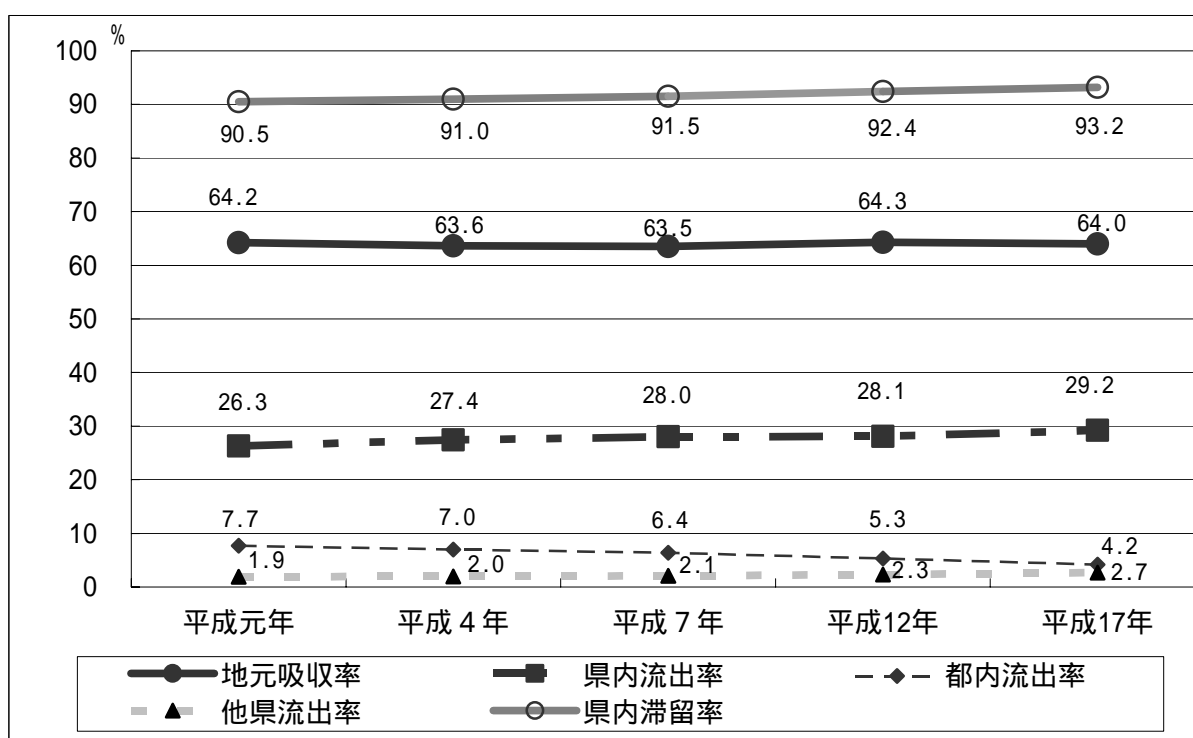
県内での買物を「地元（住んでいる市町村内）」と、「地元以外」に分けると、地元での買物は緩やかに減少し、地元以外は増加している。

県外への流出は、都内への流出が大きく減ったため、引き続き減少している。

都内への流出は4.2%（前回比79.2%）で、減少が続いている。

近県への流出は2.7%（前回比117.4%）で、増加が続いている。

図表 2 - 1 県全体の流動状況（地元吸収率等）の推移



1 流動状況の動向

県内で買物を、地元（住んでいる市町村内）と地元以外に分けると、地元での買物は緩やかに減少しているものの、地元以外での買物は増加している。県内での買物は、地元以外の買物の増加で増えている。

一方、都内への流出は減少している。近県への流出は増えているものの、県外への流出として合計すると、減少している。

（１）地元吸収率 地元での買物は、緩やかに減少している

地元吸収率は、緩やかな減少傾向にある。地元吸収率（商品総合）は、前回から0.3ポイント減少して、64.0%（前回比99.5%）になった。前回調査では、増加に転じていたものの、再び減少している。

（２）県内流出率 地元以外での買物は、一層増えている

県内流出率は、増加で推移している。県内流出率（商品総合）は、前回から1.1ポイント増加して、29.2%（前回比103.9%）になった。

（３）県内滞留率 県内での買物は、地元以外での買物の増加で、増えている

県内流出率の増加が、地元吸収率の減少を上回るため、県内滞留率は、増加で推移している。県内滞留率（商品総合）は、前回から0.8ポイント増加して、93.2%（前回比100.9%）になった。

（４）都内流出率 都内への流出は、一層弱まっている

都内流出率は、減少で推移している。都内流出率（商品総合）は、前回から1.1ポイント減少して4.2%（前回比79.2%）になった。

（５）他県流出率 近県への流出は、増えているがまだ少ない

他県流出率は、低率ではあるものの、増加で推移している。他県流出率（商品総合）は、前回から0.4ポイント増加して、2.7%（前回比117.4%）になった。

2 地元吸収率の状況

（１）地区の地元吸収率

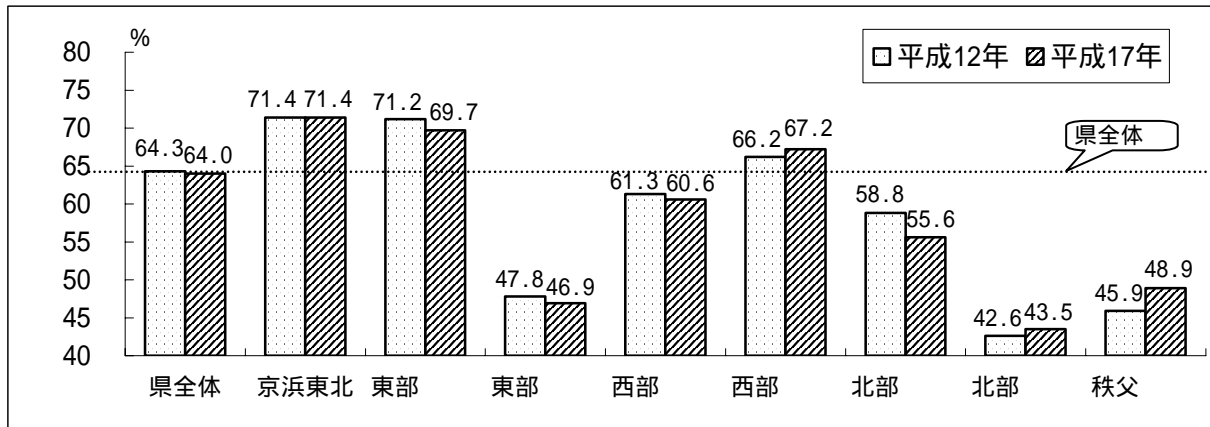
地元吸収率を地区別にみると、増加が3、減少が4で、横ばいが1となっている。また、県全体の地元吸収率を上回る地区では、増加1、減少1、横ばい1、下回る地区では、増加2、減少3となっている。

（増加）西部 地区、北部 地区、秩父地区

（減少）東部 地区、東部 地区、西部 地区、北部 地区

（横ばい）京浜東北地区

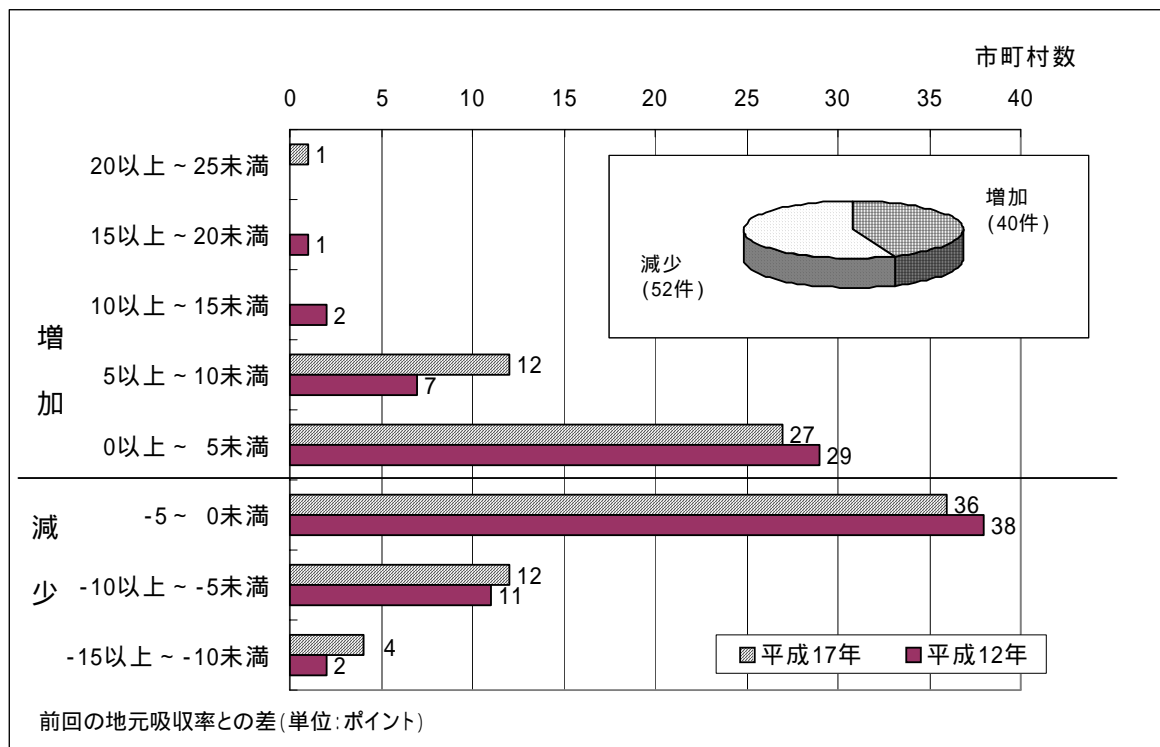
図表 2 - 2 県全体及び地区の地元吸収率【平成 12 年・平成 17 年】



(2) 市町村の地元吸収率

市町村の地元吸収率は、増加が40（16市20町4村）、減少が52（27市20町5村）で、減少が半数以上を占め、市部での減少が目立っている。また、増加幅の大きい市町村は、前回と比べて総じて減少している。

図表 2 - 3 市町村の地元吸収率の変化【平成 12 年との比較】



3 商品群別の流動状況

商品群別の流動状況は、商品群を構成する買物品目の違いから、商品総合の流動状況とは異なっている。ここでは、各商品群の流動状況の特徴と動向を述べる。

なお、商品群及び買物品目については3頁を参照されたい。

(1) A群(食料品、日用雑貨等)

A群の特徴として、地元での買物が非常に多く、県外への流出が少ないことが挙げられる。地元吸収率と県内滞留率の高さは、商品群の中で際立っている。

- ・ 地元吸収率は、82.2%(前回比100.2%)で、概ね横ばいだった。
- ・ 県内滞留率は、98.7%で、県内での買物がほとんどを占めている。

(2) B群(洋服、衣類等)

B群の特徴として、地元での買物が少なく、県外へ流出が多いことが挙げられる。地元吸収率と県内滞留率は、C群に次いで低くなっている。

- ・ 地元吸収率は、56.0%(前回比99.1%)で、概ね横ばいである。
- ・ 県内滞留率は、89.5%(前回比101.2%)で、増加が続いている。

(3) C群(靴、かばん等)

C群の特徴として、地元での買物が少なく、県外へ流出が多いことが挙げられる。地元吸収率と県内滞留率は、最も低くなっている。

- ・ 地元吸収率は、51.4%(前回比95.9%)で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、85.9%(前回比99.9%)で、概ね横ばいである。

(4) D群(家具、家電等)

D群の特徴として、地元以外(の県内)での買物が多いことが挙げられる。県内流出率は最も高く、地元吸収率は商品総合を下回っている。

- ・ 地元吸収率は、57.5%(前回比93.3%)で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、93.2%(前回比99.1%)で、概ね横ばいである。

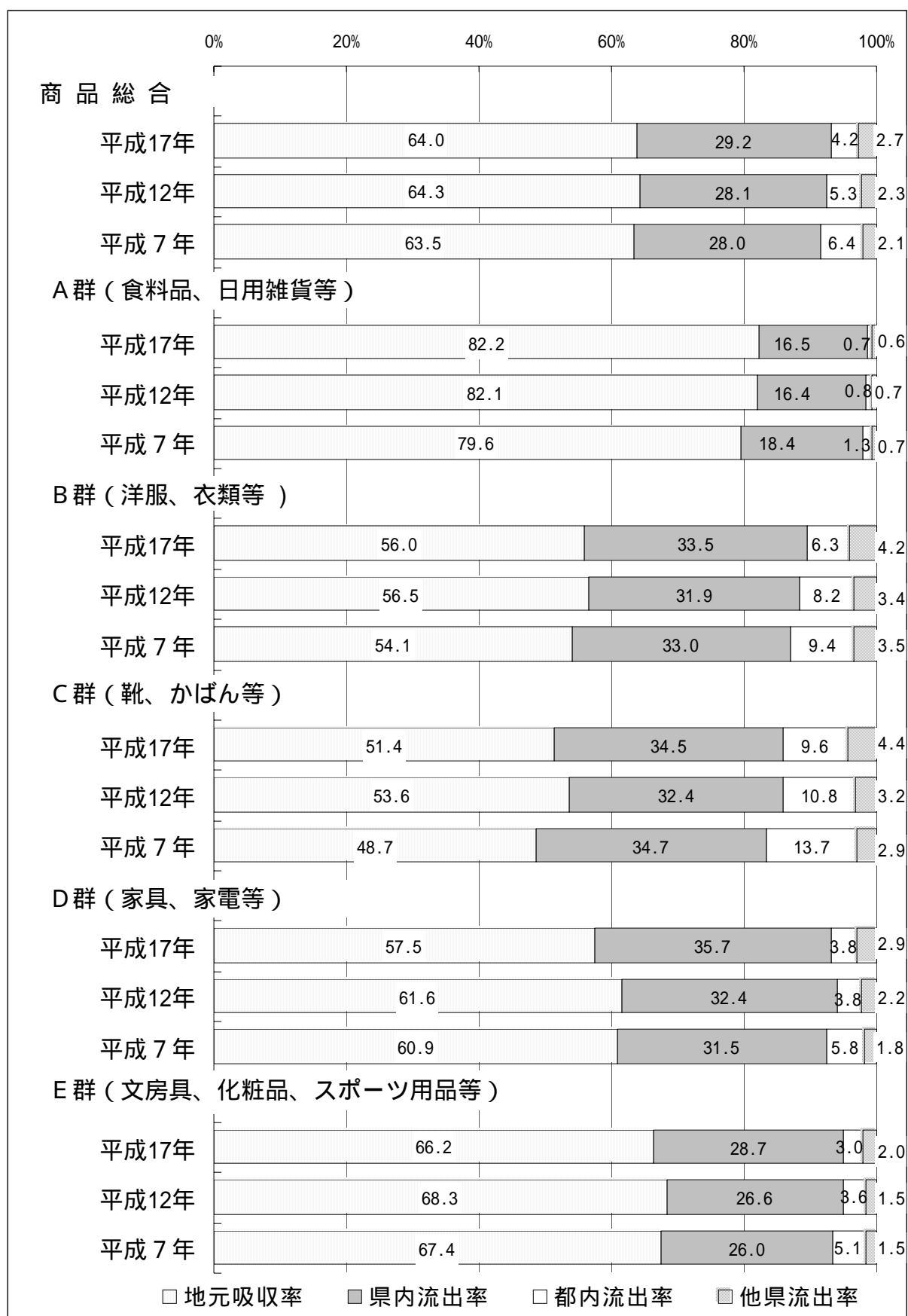
県内流出率は、35.7%(前回比110.2%)で、増加が続いている。平成7年に3番目だったD群の県内流出率は、平成12年にB群を、今回C群を抜いて、商品群の中で最も高くなった。

(5) E群(文房具、化粧品、スポーツ洋品等)

E群の特徴として、地元での買物が多く、地元以外(の県内)での買物が伸びていることが挙げられる。地元吸収率は、A群に次いで高い。また、県内流出率は、平成元年から増加が続いている。

- ・ 地元吸収率は、66.2%(前回比96.9%)で、減少に転じた。
 - ・ 県内滞留率は、94.9%(前回比100.0%)で、横ばいだった。
- 県内流出率は、28.7%(前回比107.9%)で、増加が続いている。

図表 2 - 4 県全体の流動状況【商品総合・商品群別】



4 外出目的からみる流動状況

外出目的から流動状況を見ると、地元吸収率や県内滞留率は、商品総合と比べて低く、県外への流出が多くなっている。ここでは、外出目的からみる流動状況の特徴と動向を述べる。

(1) 家族で買物を楽しむ場合

家族で買物を楽しむ場合の外出先は、県内が多い。

- ・ 地元吸収率は、38.1%（前回比85.2%）で、減少に転じた。
 なお、県内流出率は45.3%（前回比112.7%）で、地元吸収率を上回った。
- ・ 県内滞留率は、83.4%（前回比98.2%）で、減少に転じた。

(2) 飲食（外食）を楽しむ場合

飲食（外食）を楽しむ場合の外出先は、地元が多い。地元吸収率は、3つの外出目的の中で最も高く、商品総合と比べても大きな開きはない。

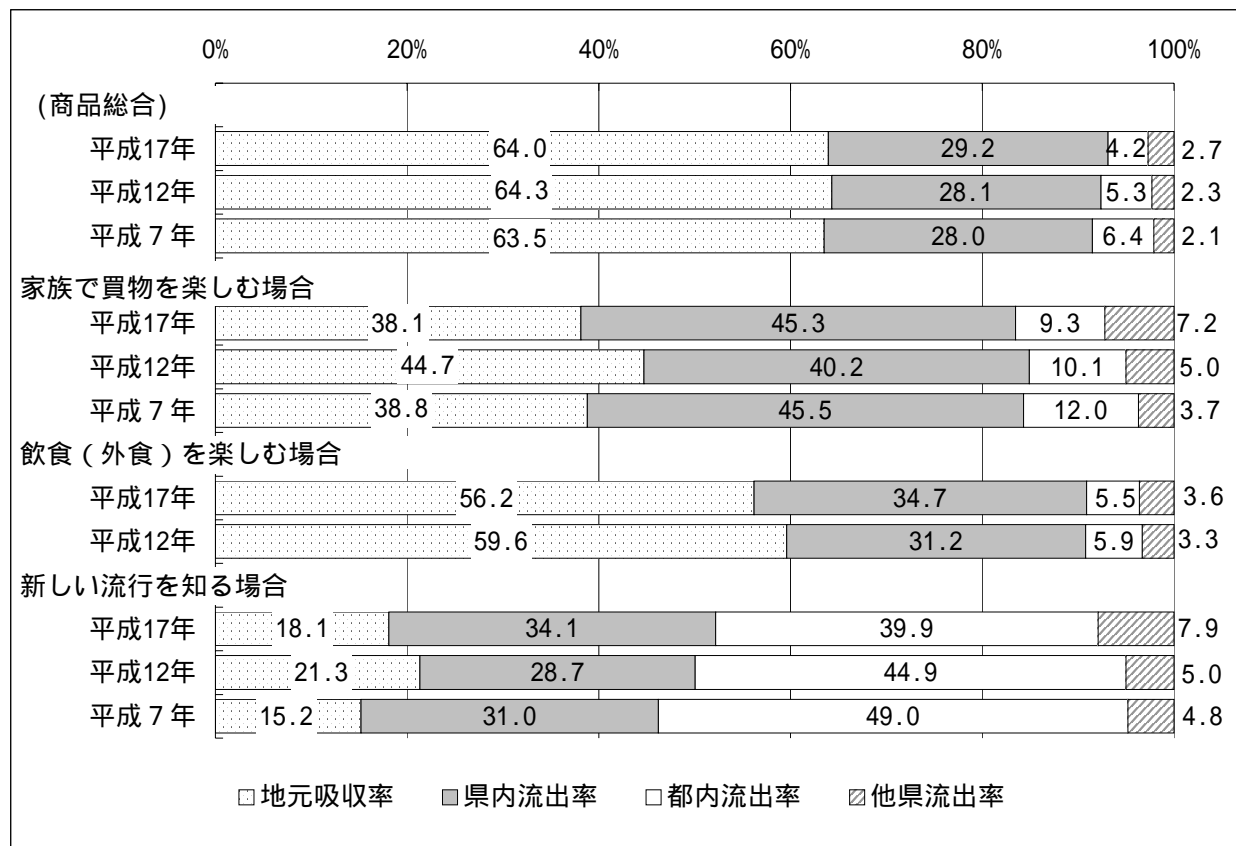
- ・ 地元吸収率は、56.2%（前回比94.3%）で、減少した。
- ・ 県内滞留率は、90.9%（前回比100.1%）で、概ね横ばいである。

(3) 新しい流行を知る場合

新しい流行を知る場合の外出先は、都内が多い。地元吸収率は20%程度に留まり、都内流出率は、地元吸収率の2倍以上になっている。

- ・ 地元吸収率は、18.1%（前回比85.0%）で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、52.2%（前回比104.4%）で、増加が続いている。
 県外への流出の中で、都内流出が占める割合は、新しい流行を知る場合が一番高い。

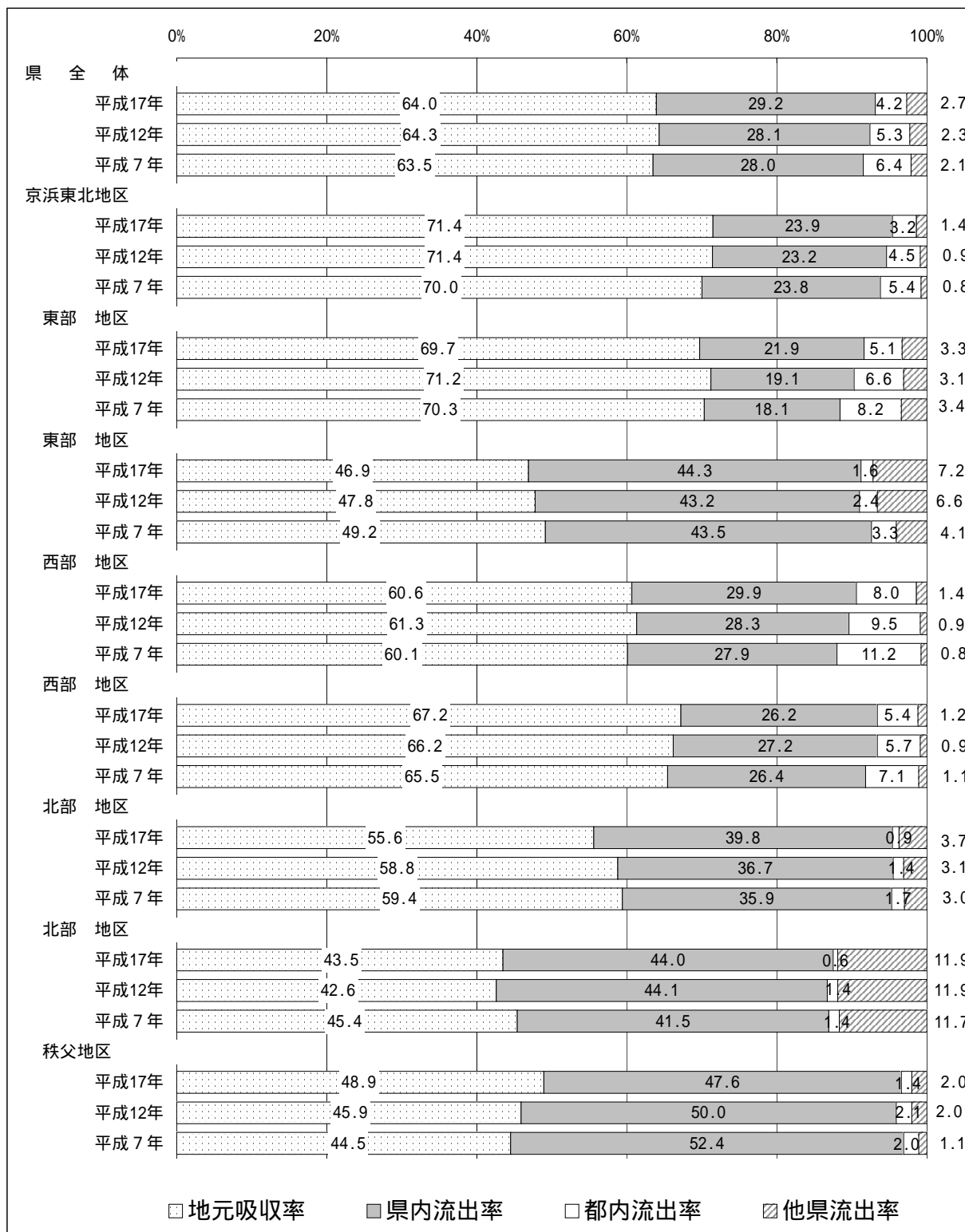
図表2 - 5 県全体の流動状況【外出目的別】



5 地区別の流動状況

流動状況は地区によって異なることから、次に、地区毎に特徴と動向を述べる。
 なお、地区の流動状況（グラフ）には、参考に外出目的別も掲載した。

図表 2 - 6 県全体及び地区の流動状況【商品総合】



(1) 京浜東北地区

京浜東北地区は、主に高崎線、宇都宮線などの沿線地域で、その南端は東京都に接している。地区内には、旧大宮市、川口市、上尾市をはじめとする全16市町がある。地区の人口は約253万5千人で、県の35.8%を占めている。

この地区の特徴として、地元での買い物が多く、都内への流出が比較的少ないことが挙げられる。この地区では商業施設が最も充実しているため、地元吸収率は総じて県内で最も高く、また、都内流出率は、東京都に接する地区（ただし、秩父地区を除く。）の中で一番低くなっている。

【商品総合】

- ・ 地元吸収率は、71.4%（前回比100.0%）で、横ばいだった。
- ・ 県内流出率は、23.9%（前回比103.0%）で、増加に転じた。
- ・ 県内滞留率は、95.3%（前回比100.7%）で、増加が続いている。
- ・ 都内流出率は、3.2%（前回比71.1%）で、減少が続いている。
- ・ 他県流出率は、1.4%（前回比155.6%）で、増加が続いている。

【商品群別】

A群（食料品、日用雑貨等）

- ・ 地元吸収率は、87.1%（前回比100.2%）で、増加が続いている。
- ・ 県内滞留率は、99.7%で、県内での買物がほとんどを占めている。

B群（洋服、衣類等）

- ・ 地元吸収率は、63.4%（前回比99.8%）で、概ね横ばいである。
- ・ 県内滞留率は、91.8%（前回比101.1%）で、増加が続いている。

C群（靴、かばん等）

- ・ 地元吸収率は、60.0%（前回比97.2%）で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、89.3%（前回比100.4%）で、概ね横ばいである。

D群（家具、家電等）

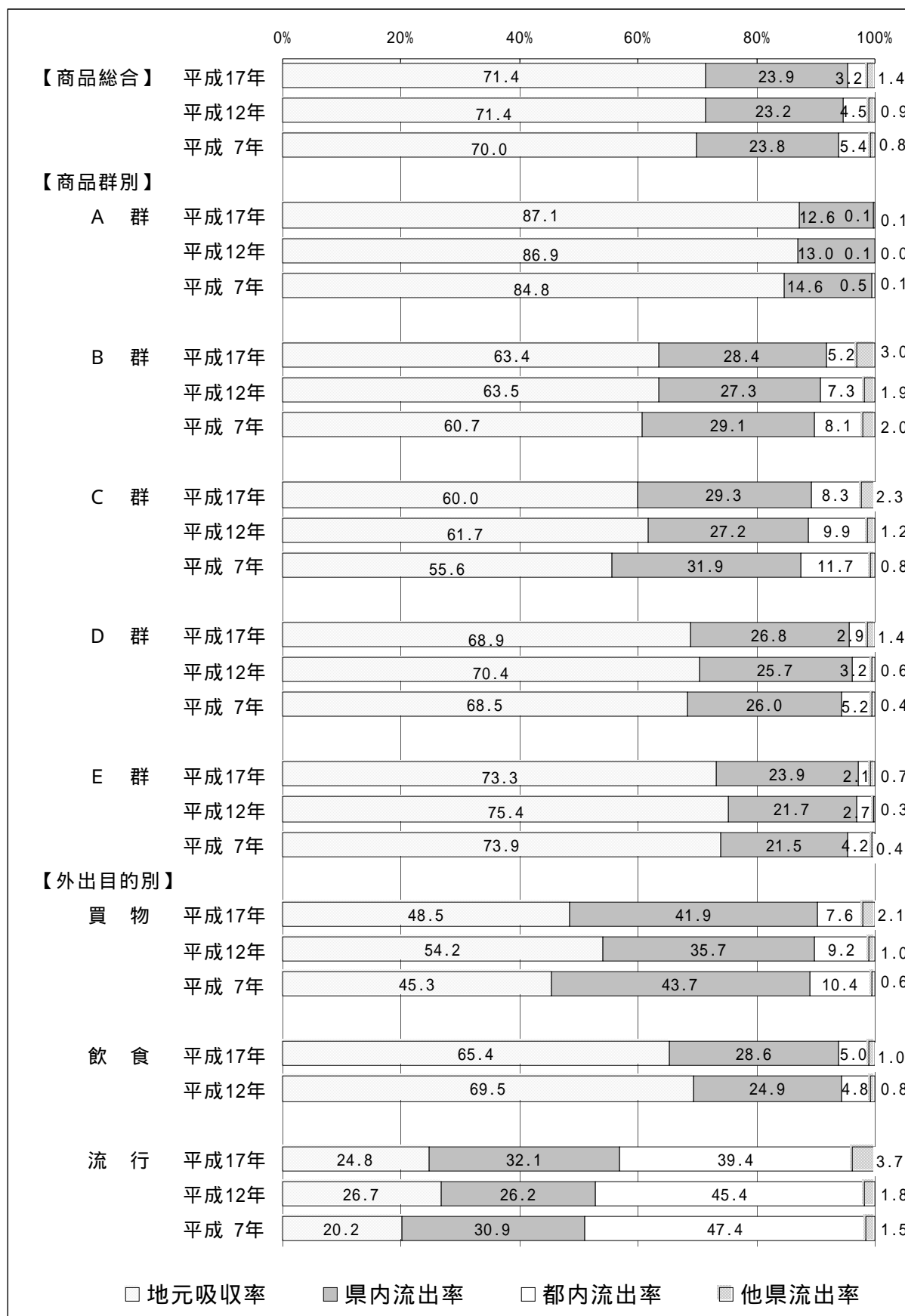
- ・ 地元吸収率は、68.9%（前回比97.9%）で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、95.7%（前回比99.6%）で、概ね横ばいである。

京浜東北地区のB群～E群の地元吸収率は県内で第1位であるが、中でもD群は高く、第2位の東部地区（62.1%）や、第3位の西部地区（58.0%）とは開きがある。

E群（文房具、化粧品、スポーツ洋品等）

- ・ 地元吸収率は、73.3%（前回比97.2%）で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、97.2%（前回比100.1%）で、概ね横ばいである。

図表2 - 7 京浜東北地区の流動状況【商品総合・商品群別等】



(2) 東部 地区

東部 地区は、主に東武伊勢崎線の沿線地域で、その南端は東京都に、東側は千葉県に接している。地区内には、春日部市、越谷市をはじめとする全10市町がある。地区の人口は約116万9千人で、県の16.5%を占めている。

この地区の特徴として、地元での買物は多く、地元以外(の県内)での買物は少ないことが挙げられる。商業施設が充実しているため、地元吸収率は第2位と高い。その反面で、東京都、千葉県に接していることなどから、地元を離れる買物では県外へ流出する傾向があり、県内流出率は県内で最も低くなっている。

【商品総合】

- ・ 地元吸収率は、69.7%(前年比97.9%)で、減少に転じた。
- ・ 県内流出率は、21.9%(前年比114.7%)で、増加が続いている。
また、東部 地区の県内流出率は、県内で最も高い伸びとなっている。
- ・ 県内滞留率は、91.6%(前年比101.4%)で、増加が続いている。
- ・ 都内流出率は、5.1%(前年比77.3%)で、減少が続いている。
- ・ 他県流出率は、3.3%(前年比106.5%)で、増加に転じた。

【商品群別】

A群(食料品、日用雑貨等)

- ・ 地元吸収率は、87.4%(前年比98.1%)で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、98.7%で、県内での買物がほとんどを占めている。

B群(洋服、衣類等)

- ・ 地元吸収率は、61.7%(前年比95.8%)で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、87.4%(前年比102.8%)で、増加が続いている。
なお、県内流出率の伸びが、他の地区に比べて目立っている。

東部 地区(前年比124.8%) / 他の7地区(前年比95.4%~106.4%)

C群(靴、かばん等)

- ・ 地元吸収率は、55.3%(前年比91.6%)で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、82.8%(前年比100.4%)で、概ね横ばいである。
なお、県内流出率の伸びが、他の地区に比べて目立っている。

東部 地区(前年比124.4%) / 他の7地区(前年比97.1%~107.7%)

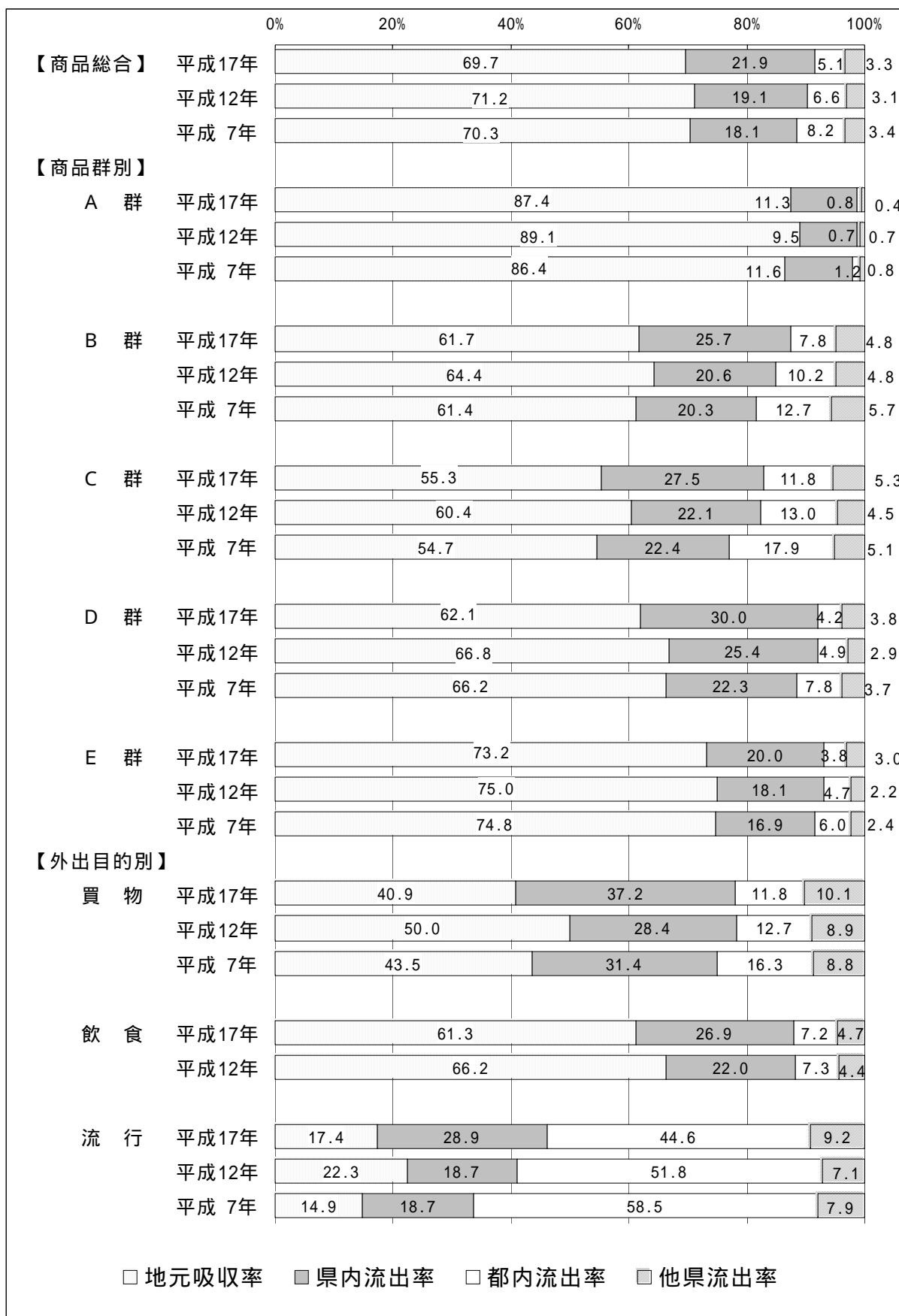
D群(家具、家電等)

- ・ 地元吸収率は、62.1%(前年比93.0%)で減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、92.1%(前年比99.9%)で概ね横ばいである。

E群(文房具、化粧品、スポーツ洋品等)

- ・ 地元吸収率は、73.2%(前年比97.6%)で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、93.2%(前年比100.1%)で、概ね横ばいである。

図表 2 - 8 東部 地区の流動状況【商品総合・商品群別等】



(3) 東部 地区

東部 地区は、宇都宮線、東武伊勢崎線、東武日光線の沿線地域で、群馬県、栃木県、茨城県に接している。地区内には、久喜市をはじめとする全10市町がある。地区の人口は約38万2千人で、県の5.4%を占めている。

この地区の特徴として、地元以外（の県内及び県外）での買い物が多いことが挙げられる。地元吸収率は第7位と低く、県内流出率及び他県流出率は第2位と高い。また、地元吸収率と県内流出率は、概ね同じ程度になっている。

【商品総合】

- ・ 地元吸収率は、46.9%（前回比98.1%）で、減少が続いている。
- ・ 県内流出率は、44.3%（前回比102.5%）で、増加に転じた。
- ・ 県内滞留率は、91.2%（前回比100.2%）で、概ね横ばいである。
- ・ 都内流出率は、1.6%（前回比66.7%）で、減少が続いている。
- ・ 他県流出率は、7.2%（前回比109.1%）で、増加が続いている。

【商品群別】

地元吸収率と県内流出率の比率は、商品群によって異なる。地元志向の高いA群及びE群では、地元吸収率の方が高く、B～D群では、県内流出率の方が高くなっている。

A群（食料品、日用雑貨等）

- ・ 地元吸収率は、72.3%（前回比105.2%）で、増加が続いている。
- ・ 県内滞留率は、97.2%で、県内での買物がほとんどを占めている。

B群（洋服、衣類等）

- ・ 地元吸収率は、37.8%（前回比97.2%）で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、87.4%（前回比99.9%）で、概ね横ばいである。

C群（靴、かばん等）

- ・ 地元吸収率は、32.3%（前回比86.6%）で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、83.1%（前回比96.6%）で、減少が続いている。

D群（家具、家電等）

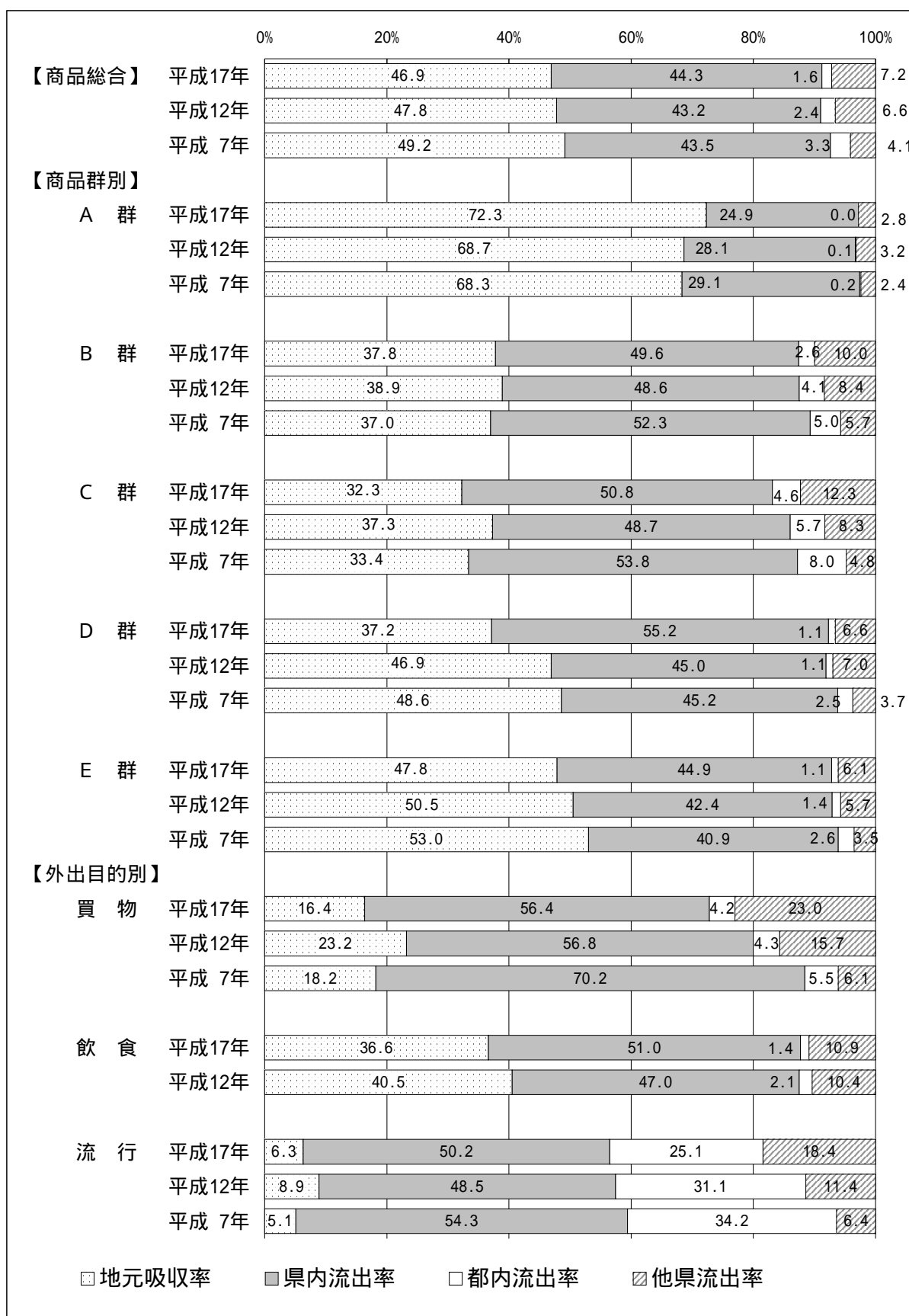
- ・ 地元吸収率は、37.2%（前回比79.3%）で、落ち込みが目立っている。
- ・ 県内滞留率は、92.4%（前回比100.5%）で、概ね横ばいである。

なお、D群では、他県流出率が減少に転じている。

E群（文房具、化粧品、スポーツ洋品等）

- ・ 地元吸収率は、47.8%（前回比94.7%）で、減少が続いている。
- ・ 県内滞留率は、92.7%（前回比99.8%）で、概ね横ばいである。

図表 2 - 9 東部 地区の流動状況【商品総合・商品群別等】



(4) 西部 地区

西部 地区は、主に東武東上線沿線地域で、その南端は東京都に接している。地区内には、川越市、坂戸市、東松山市、大井町をはじめとする全15市町がある。地区の人口は約132万2千人で、県の18.7%を占めている。

この地区の特徴として、都内への流出が多いことが挙げられる。都内流出率は県内で最も高く、特に地区南部での高さが際立っている。

【商品総合】

- ・ 地元吸収率は、60.6%（前年比98.9%）で、減少に転じた。
- ・ 県内流出率は、29.9%（前年比105.7%）で、増加が続いている。
- ・ 県内滞留率は、90.5%（前年比101.0%）で、増加が続いている。
- ・ 都内流出率は、8.0%（前年比84.2%）で、減少が続いている。
- ・ 他県流出率は、1.4%（前年比155.6%）で、増加が続いている。

【商品群別】

A群（食料品、日用雑貨等）

- ・ 地元吸収率は、79.4%（前年比98.0%）で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、97.9%で、県内での買物がほとんどを占めている。

B群（洋服、衣類等）

- ・ 地元吸収率は、52.1%（前年比99.4%）で、概ね横ばいである。
- ・ 県内滞留率は、85.9%（前年比101.8%）で、増加が続いている。

C群（靴、かばん等）

- ・ 地元吸収率は、48.2%（前年比97.8%）で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、82.2%（前年比101.1%）で、増加が続いている。

D群（家具、家電等）

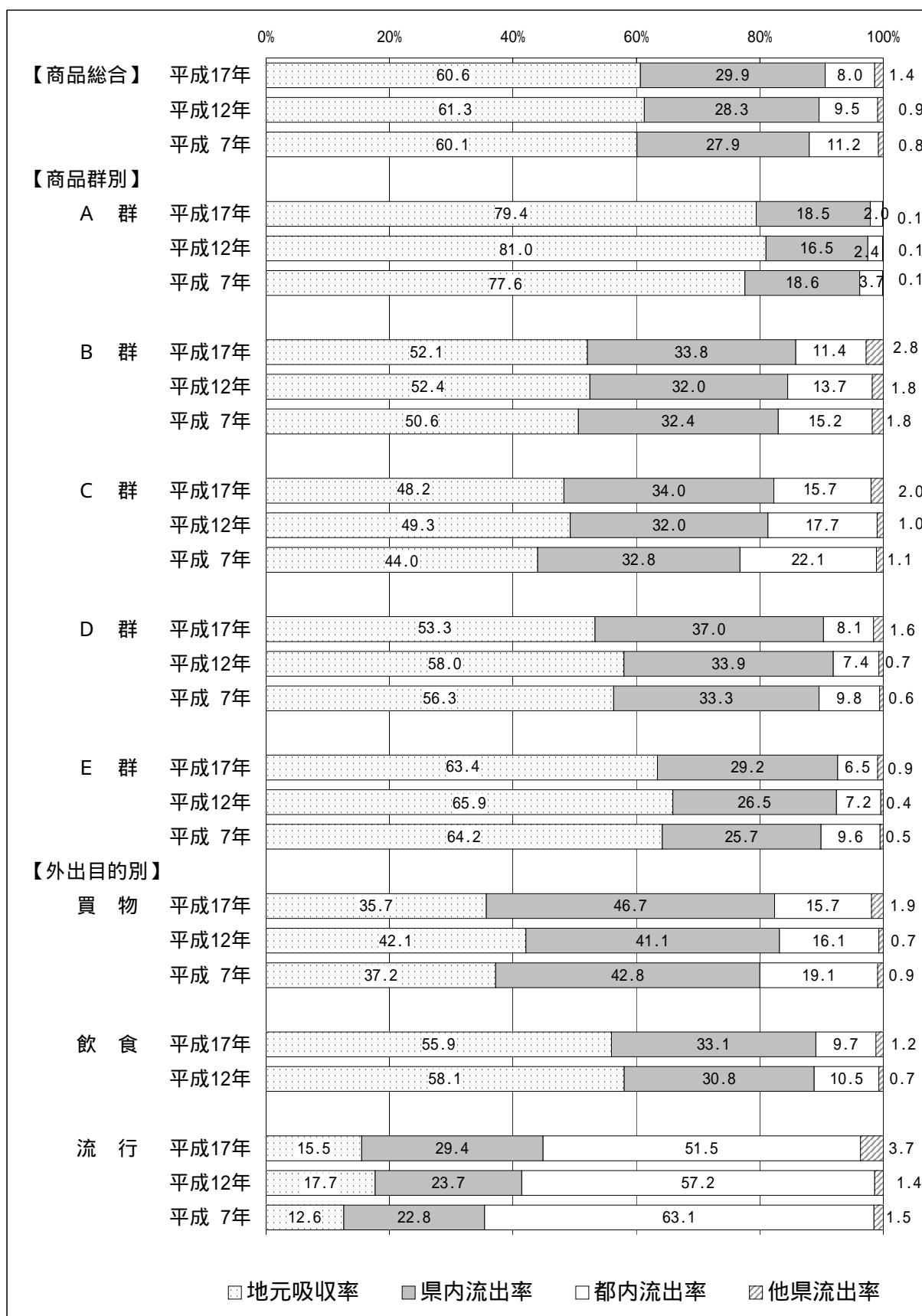
- ・ 地元吸収率は、53.3%（前年比91.9%）で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、90.3%（前年比98.3%）で、減少に転じた。

D群では、都内流出率は、8.1%（前年比109.5%）で増加に転じている。

E群（文房具、化粧品、スポーツ洋品等）

- ・ 地元吸収率は、63.4%（前年比96.2%）で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、92.6%（前年比100.2%）で、概ね横ばいである。

図表2 - 10 西部 地区の流動状況【商品総合・商品群別等】



(5) 西部 地区

西部 地区は、主に西武池袋線、八高線の沿線地域で、その南は東京都（市部）に接している。地区内には、入間市、旧飯能市をはじめとする全14市町村がある。地区の人口は約92万7千人で、県の13.1%を占めている。

この地区の流動状況の構成比率は、県全体に近い数字となっていて、地元吸収率は、県全体を上回っている。

【商品総合】

- ・ 地元吸収率は、67.2%（前回比101.5%）で、増加が続いている。
- ・ 県内流出率は、26.2%（前回比96.3%）で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、93.4%（前回比100.0%）で、横ばいである。
- ・ 都内流出率は、5.4%（前回比94.7%）で、減少が続いている。
- ・ 他県流出率は、1.2%（前回比133.3%）で増加に転じた。

【商品群別】

A群（食料品、日用雑貨等）

- ・ 地元吸収率は、84.0%（前回比101.1%）で、増加が続いている。
- ・ 県内滞留率は、98.8%で、県内での買物がほとんどを占めている。

B群（洋服、衣類等）

- ・ 地元吸収率は、60.9%（前回比102.9%）で、増加が続いている。
- ・ 県内滞留率は、89.8%（前回比100.3%）で、概ね横ばいである。

C群（靴、かばん等）

- ・ 地元吸収率は、55.0%（前回比98.2%）で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、85.5%（前回比97.8%）で、減少に転じた。

なお、C群の都内流出率は、12.3%（前回比108.8%）で、増加に転じている。

D群（家具、家電等）

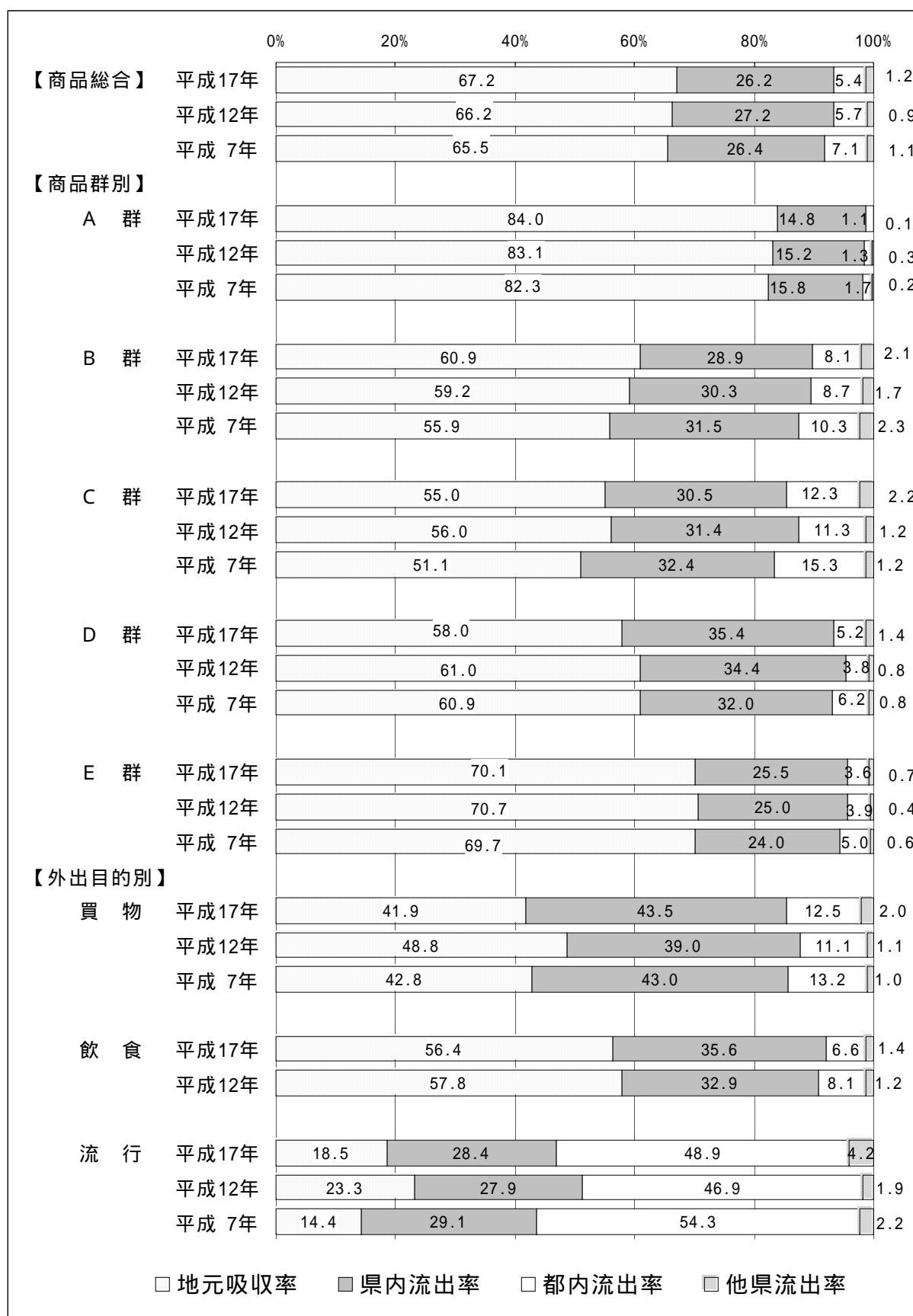
- ・ 地元吸収率は、58.0%（前回比95.1%）で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、93.4%（前回比97.9%）で、減少に転じた。

なお、D群の都内流出率は、5.2%（前回比136.8%）で、増加に転じている。

E群（文房具、化粧品、スポーツ洋品等）

- ・ 地元吸収率は、70.1%（前回比99.2%）で、概ね横ばいである。
- ・ 県内滞留率は、95.6%（前回比99.9%）で、概ね横ばいである。

図表2 - 1 1 西部 地区の流動状況【商品総合・商品群別等】



(6) 北部 地区

北部 地区は、主に高崎線、秩父鉄道の沿線地域で、その北側は群馬県に接している。地区内には、熊谷市、深谷市をはじめとする全12市町村がある。地区の人口は約48万7千人で、県の6.9%を占めている。

この地区の特徴として、県内での買物が多く、他県への流出は比較的低いことが挙げられる。他県流出率は、群馬県に接する地区（ただし、秩父地区を除く）の中で一番低く、県内滞留率は秩父地区に次いで高い。また、地元吸収率は県全体を下回るものの、県内流出率よりも高くなっている。

【商品総合】

- ・ 地元吸収率は、55.6%（前年比94.6%）で、減少が続いている。
- ・ 県内流出率は、39.8%（前年比108.4%）で、増加が続いている。
- ・ 県内滞留率は、95.4%（前年比99.9%）で、概ね横ばいである。
- ・ 都内流出率は、0.9%（前年比64.3%）で、減少が続いている。
- ・ 他県流出率は、3.7%（前年比119.4%）で増加が続いている。

【商品群別】

A群（食料品、日用雑貨等）

- ・ 地元吸収率は、75.4%（前年比98.4%）で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、98.3%で、県内での買物がほとんどを占めている。

B群（洋服、衣類等）

- ・ 地元吸収率は、49.1%（前年比95.3%）で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、94.0%（前年比100.3%）で、概ね横ばいである。

C群（靴、かばん等）

- ・ 地元吸収率は、44.3%（前年比93.5%）で、減少に転じた。
なお、県内流出率は、46.5%（前年比104.7%）で、地元吸収率を上回った。
- ・ 県内滞留率は、90.8%（前年比98.9%）で、減少に転じた。

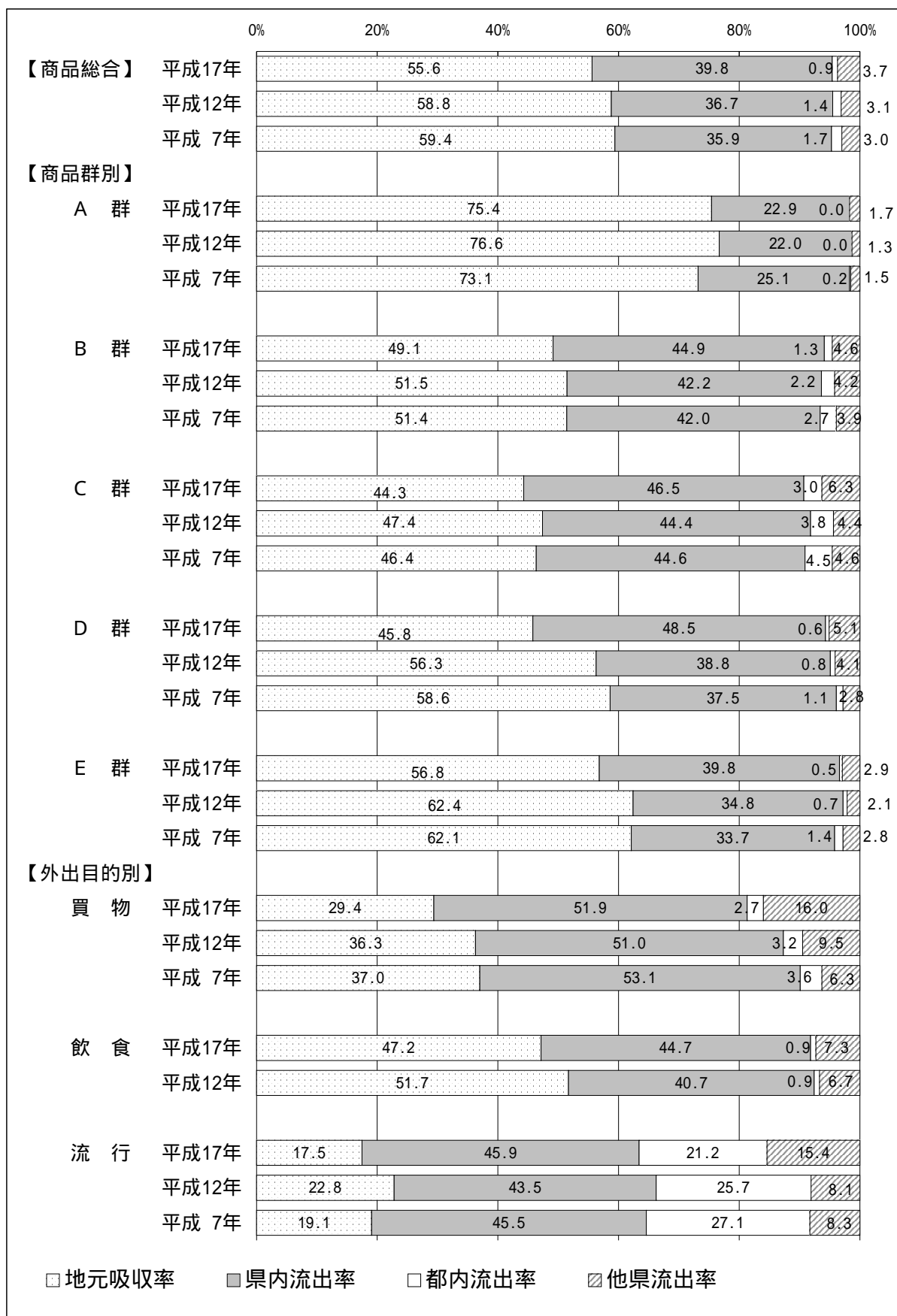
D群（家具、家電等）

- ・ 地元吸収率は、45.8%（前年比81.3%）で、落ち込みが目立っている。
なお、県内流出率は、48.5%（前年比125.0%）で、地元吸収率を上回った。
- ・ 県内滞留率は、94.3%（前年比99.2%）で、概ね横ばいである。

E群（文房具、化粧品、スポーツ洋品等）

- ・ 地元吸収率は、56.8%（前年比91.0%）で、減少に転じた。
- ・ 県内滞留率は、96.6%（前年比99.4%）で、概ね横ばいである。

図表2 - 1 2 北部 地区の流動状況【商品総合・商品群別等】



(7) 北部 地区

北部 地区は、高崎線、八高線の沿線地域で、その北側は群馬県に接している。地区内には本庄市をはじめとする全6市町村がある。地区の人口は約14万人で、県の2.0%を占めている。

この地区の特徴として、地元での買物が少なく、近県への流出が多いことが挙げられる。地元吸収率は県内で最も低く、他県流出率は最も高くなっている。また、地元吸収率と県内流出率は、同程度になっている。

【商品総合】

- ・ 地元吸収率は、43.5%（前回比102.1%）で、増加に転じた。
- ・ 県内流出率は、44.0%（前回比99.8%）で、概ね横ばいである。
- ・ 県内滞留率は、87.5%（前回比100.9%）で、概ね横ばいである。
- ・ 都内流出率は、0.6%（前回比42.9%）で、減少した。
- ・ 他県流出率は、11.9%（前回比100.0%）で、横ばいである。

【商品群別】

A群（食料品、日用雑貨等）

- ・ 地元吸収率は、68.1%（前回比104.9%）で、増加が続いている。
- ・ 県内滞留率は、97.0%で、県内での買物がほとんどを占めている。

地元吸収率と県内滞留率の増加が続いているのは、北部 地区ではA群のみである。

B群（洋服、衣類等）

- ・ 地元吸収率は、34.9%（前回比99.4%）で、概ね横ばいである。

なお、県内流出率は48.6%（前回比102.1%）で、地元吸収率を上回っている。

- ・ 県内滞留率は、83.5%（前回比101.0%）で、増加が続いている。

C群（靴、かばん等）

- ・ 地元吸収率は、29.2%（前回比102.8%）で、増加に転じた。

なお、県内流出率は48.5%（前回比101.3%）で、地元吸収率を上回っている。

- ・ 県内滞留率は、77.7%（前回比101.8%）で、増加が続いている。

D群（家具、家電等）

- ・ 地元吸収率は、33.5%（前回比92.5%）で、減少が続いている。

なお、県内流出率は51.5%（前回比100.8%）で、地元吸収率を上回っている。

- ・ 県内滞留率は、85.0%（前回比97.4%）で、減少が続いている。

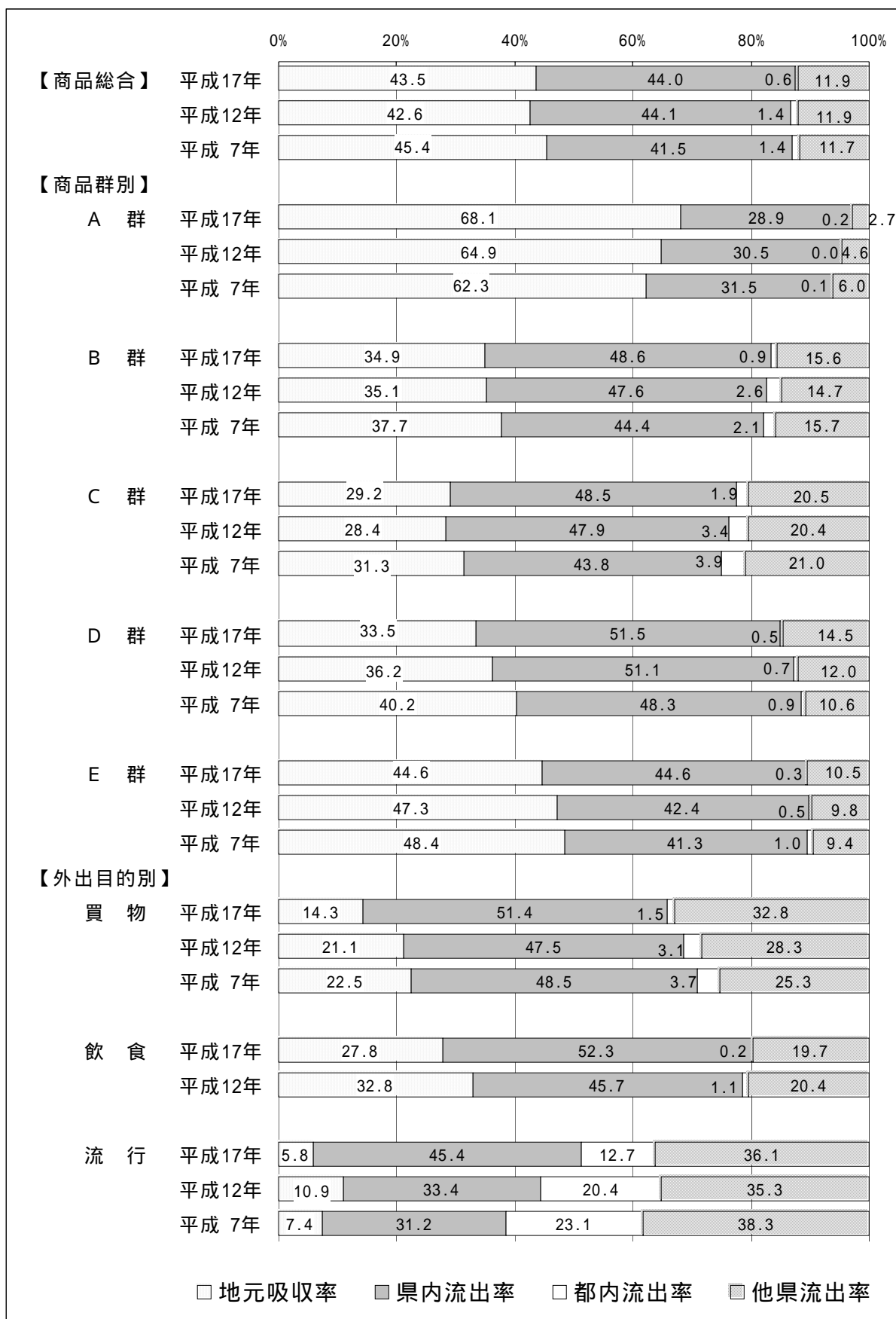
E群（文房具、化粧品、スポーツ洋品等）

- ・ 地元吸収率は、44.6%（前回比94.3%）で、減少が続いている。

なお、県内流出率は44.6%（前回比105.2%）で、地元吸収率と同率になった。

- ・ 県内滞留率は、89.2%（前回比99.4%）で、概ね横ばいである。

図表2 - 13 北部 地区の流動状況【商品総合・商品群別等】



(8) 秩父地区

秩父地区は、秩父鉄道、西武秩父線の沿線地域で、その周囲は山間部で、東京都、山梨県、長野県、群馬県に接している。地区内には、旧秩父市をはじめとする全9市町村がある。地区の人口は約11万6千人で、県の1.6%を占めている。

この地区の特徴として、地元以外(の県内)での買物が多く、県外への流出が極めて少ないことが挙げられる。秩父地区は、その地理的要因から、県外への流出は最も低く、県内流出率及び県内滞留率は最も高くなっている。

【商品総合】

- ・ 地元吸収率は、48.9%(前回比106.5%)で、増加が続いている。
なお、今回の調査で、地元吸収率は、県内流出率を上回った。
- ・ 県内流出率は、47.6%(前回比95.2%)で、減少が続いている。
- ・ 県内滞留率は、96.5%(前回比100.6%)で、概ね横ばいである。
- ・ 都内流出率は、1.4%(前回比66.7%)で、減少した。
- ・ 他県流出率は、2.0%(前回比100.0%)で、横ばいだった。

【商品群別】

A群(食料品、日用雑貨等)

- ・ 地元吸収率は、72.5%(前回比110.2%)で、増加が続いている。
- ・ 県内滞留率は、99.9%で、県内での買物がほとんどを占めている。

B群(洋服、衣類等)

- ・ 地元吸収率は、37.8%(前回比101.6%)で、増加が続いている。
なお、県内流出率は57.1%(前回比101.8%)で、地元吸収率を上回っている。
- ・ 県内滞留率は、94.9%(前回比101.7%)で、増加に転じた。

C群(靴、かばん等)

- ・ 地元吸収率は、35.4%(前回比101.7%)で、増加が続いている。
なお、県内流出率は55.5%(前回比101.1%)で、地元吸収率を上回っている。
- ・ 県内滞留率は、90.9%(前回比101.3%)で、増加が続いている。

D群(家具、家電等)

- ・ 地元吸収率は、44.5%(前回比94.9%)で、減少が続いている。
なお、県内流出率は51.8%(前回比103.8%)で、地元吸収率を上回っている。
- ・ 県内滞留率は96.3%(前回比99.5%)で、減少が続いている。

E群(文房具、化粧品、スポーツ洋品等)

- ・ 地元吸収率は、50.4%(前回比103.7%)で、増加が続いている。
なお、今回の調査で、地元吸収率は、県内流出率(47.5%)を上回った。
- ・ 県内滞留率は、97.9%(前回比99.8%)で、概ね横ばいである。

図表 2 - 1 4 秩父地区の流動状況【商品総合・商品群別等】

